

## 第1回県立高校入試改善検討委員会（会議録）

平成22年6月25日（金）13:30～15:30

於：盛岡地区合同庁舎8階講堂B

### 1 開会（高橋高校教育課長）

### 2 教育委員会あいさつ（佐々木教育次長兼学校教育室長）

日頃から本県の教育振興にご尽力いただき、深く感謝を申し上げます。

現行の高校入試制度は、500点満点の学力検査、面接の得点化、ABC選考の導入等を取り入れ、平成16年度から実施している。またその後、様々な意見に基づいて見直しを行い、平成19年度入試から新しい推薦入学者選抜制度を導入するなど、改善を加えて現在に至っている。現行の入試制度となって7年、また新しい推薦入試制度を導入してから4年が経過し、一般入学者選抜や推薦入学者選抜など選抜形態に関わる課題、ABC選考やくくり募集など選考方法についての課題等が指摘されているほか、新型インフルエンザ等不測の事態に対応する方法など新しい課題が生じている。このような状況から現行の入試制度を検証し、問題点を洗い出し改善策を検討するため県立高校入試改善検討委員会を設置することとした。

多様化する生徒の現状や子どもたちを取り巻く社会状況の変化等も踏まえ、本委員会では県立高校入学者選抜制度をより良い方向に改善するという観点から、様々な意見をいただきたい。

### 3 委員紹介

### 4 委員長および副委員長の選出

委員長 望月善次 盛岡大学学長

副委員長 玉真之介 岩手大学副学長

委員長あいさつ（望月盛岡大学学長）

教育には色々な要素があり、一つのものだけで決めていけないものではない。入試制度も色々なものが絡み合い簡単に行くものではないと思うが、委員の方々の英知をいただき進めて行きたい。

### 5 説明・協議（議長:望月委員長）

#### （1）設置要綱および現行入試制度について

事務局から資料により説明

#### （2）現行入試制度の成果と課題について

事務局から資料により説明

#### （3）質問・意見

[玉委員]

大学では、個性化・多様化が行き過ぎると、肝心の学力の部分が蔑ろにされているのではないかというような論調がある。多様化、個性化と共に標準性の確保というという言葉がキーワードで出てきている。高校入試で一定の標準性を確保していくという

観点は。

[岩井主任指導主事]

学力向上は岩手県の課題。県全体の課題として学力向上に取り組んでいるので、入学者選抜制度の在り方についても学力向上の観点は必要なことと考えている。

[玉委員]

学校裁量拡大の要望がでていいる一方で、入試倍率の低い高校ではABC選考が機能していないようだが。

[岩井主任指導主事]

入試倍率は1.03倍が2年間続いており、倍率の低い高校では確かにそのような状況がある。倍率や入試制度について、他県の情報を次回の会議までにまとめる予定である。定員や学区については、高校改革担当で整備計画を進めており連携を図っていく。

[高橋高校教育課長]

先ほど学力向上の話があったが、16年度入試からは、基礎学力の確認を重視し、どの生徒も入試で学力検査を課すということでABC選考を導入した。推薦入試を廃止したため、B選考を推薦入試の代替としたが、中学校からは受検機会の複数化の要望、高校からはB選考が推薦の代替になっていないという意見があり、19年度入試から推薦が復活しABC選考も行う現行の入試制度になった。

[鳩岡委員]

倍率が低い状況で、入試に対する中学生のモチベーションが高まるような入試制度にするにはどうしたらいいか、というものが非常に大事な視点だと思う。高校側からは、自前で問題を作りたいという意見はあるのか。

[岩井主任指導主事]

中学生の学習へのモチベーションを高めるためには、どのようにしたらよいかご意見をいただきたい。自前で問題を作りたいという高校は一部。秋田県では既に実施している。宮城県では、これまで英語と数学を学校選択で行っていたが、25年度から入試制度を改め選択制をやめるとのこと。

[谷村委員]

せっかく進学や就職してもすぐやめてしまうケースがみられる。特に高校入試では、入学した高校や、将来の進路選択とのミスマッチがないような入試制度を考える必要があるのではないかと。現在は、知識は高いが、知識が知恵につながらないのではないかと。子供たち一人一人はいいが、集団生活がうまくできないなどの課題もある。私たちが受けた受検は点数のみだったが、現在は、多様な入試制度があり、それも良いのではないかと。

[佐々木教育次長]

進路選択におけるミスマッチは、不登校や中退につながる。県立高校だけで不登校と中退合わせて1,000人という状況が続いてきている。その中のかなりの部分でミスマッチがあると考えられる。数年前からキャリア教育の推進を、谷村委員さんにも協力していただいているが、特に小学校段階からの教育が重要と思う。

[工藤委員]

岩手県の学力は全国最下位グループで、秋田は上位ということだが、県立高校の入試

と岩手県の学力の問題とは何かしらの関係があるのか。

[佐々木教育次長]

入試にもかなり関係する部分があるだろうと考えている。鳩岡委員からも指摘があったが、入試倍率に関係があると考えている。

[玉副委員長]

今騒がれている学力が直ちに社会に出て有効に役に立つ学力なのか、ということ、そうではない場合もある。自ら学び、変化の激しい時代に適応していける力を身につける必要があるのではないか。知識をたくさんもっているだけではダメだという流れもある。

[望月委員長]

現行入試制度の課題に対しいろいろなご意見をいただいた。

次回までに、前回の検討委員会の報告書や配布された資料に目をとおしていただきたい。

## 6 その他

特になし

## 7 連絡

[高橋高校教育課長]

今後の日程と協議内容について。

第1回は本日6月25日金曜日、第2回が平成22年8月30日を予定。一般入試、定時制の入試について審議。第3回は、平成22年12月を予定。推薦入試、特別な支援を要する生徒に対する配慮や支援等について審議。第4回は平成23年4月を予定。再募集、連携、一般、推薦、不測の事態の対応について審議。第5回は、平成23年7月の予定。第4回までの審議を総合的に検討。その後パブリックコメントを9月までに実施。第6回は平成23年10月、第7回は平成23年11月の予定。この2回は、総合的検討を行い、第7回は報告書(案)の検討。

第7回終了後の日程は、平成23年11月に報告書を提出、平成23年11月から平成24年3月まで事務局案の検討を行い新入試の方針を提示したいと考えている。

次回の委員会は8月30日を予定。一般入試、定時制入試について審議。また、各県の入試制度及び、中学校・高等学校長に対し実施した入試制度に関する調査結果を第2回検討委員会で提示の予定。

## 8 閉会